

令和元年6月27日現在

機関番号：25502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01882

研究課題名(和文) アジア連携型長寿社会基盤構築に関する実証的研究：ICTを活用した広域多主体協働

研究課題名(英文) Building social cooperation for active aging societies in Asia: Collaboration by various people utilizing ICT

研究代表者

金 恵媛 (KIM, HYEWON)

山口県立大学・国際文化学部・教授

研究者番号：60405529

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本、韓国、シンガポール、タイの大学生及び高齢者を対象に社会調査を実施した。大学生には高齢者イメージに関するアンケート調査、高齢者についてはアクティブエイジング活動に関するインタビュー調査を行った。4地域に共通する調査結果として、大学生の場合、高齢者との同居や世話経験が高齢者イメージに影響していることが確認できた。高齢者インタビューでは、生涯を通して学び、活動しようとする強い意欲がアクティブエイジングの土台となることが観察できた。一方、宗教や長寿文化による地域の特徴もみられた。研究成果は、学会発表及び報告書の作成、研究代表者のHPにおいて公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、多地域(日本、韓国、シンガポール、タイ)の多世代(大学生と高齢者)、そして多領域の研究者(看護、社会福祉、情報リテラシー、地域学など)の協働による国際協働研究である。高齢化社会の課題解決に向けては社会的統合、多主体連携による協調が重要である。多様な角度から高齢社会認識、実態に注目した本研究成果は高齢社会課題解決の基礎資料として活用できると考える。本研究の4地域を筆頭にアジアでは人口高齢化が急速に進展しており、高齢社会課題はアジア地域共通の懸案課題といえる。本研究成果は類似した文化背景、高齢化状況を土台にもつ高齢社会アジアでの協働関係、新たな交流関係構築への基礎資料として活用されたい。

研究成果の概要(英文)：This social survey was conducted on university students and elderly people in four countries that are Japan, Korea, Singapore, and Thailand. The survey was conducted with a questionnaire on the image of elderly people for university students, and an interview about active aging activities of themselves of the elderly people.

As a result of the survey we found that there are common feature to the four regions. It is that living together experience and caring experience with elderly and the caring experience affect the image of the elderly. In interviews with elderly people, we found two characteristics. First, the elderly have a strong desire to learn and act throughout life that was the basis of active aging. Second, there are regional characteristics about religions and longevity culture. Research results are published in the conference and a report, and on the PI's website.

研究分野：地域研究

キーワード：高齢社会 世代関係 アジア

## 1. 研究開始当初の背景

現代社会を読み解くキーワードとして「グローバル化」「情報化」「高齢化」が注目されている。「グローバル化」と「情報化」の有機的な関係がわかりやすい一方で「高齢化」は両者に対し極的な位置関係で語られることが少なくない。新時代創生の希望的観点から言及されることの多い前者に対し、後者は社会的負担増・世代間対立など否定的な側面が注目されやすいことが背景にある。ほとんどの人が超高齢社会を生きる当事者となることは間違いなく、高齢社会の肯定的な側面の見える化を具体的に進めていく必要がある。

アジア諸国間の関係に目を転じると、歴史や経済的な関係に比重が置かれる傾向がある。そこで暮らしている人々の考え、背景にある社会文化的状況などに関心を持ち相互理解を深める機会は意外と多くない。一方、超高齢社会の到来はアジアの国々が直面する共通の課題とされており、関係諸国間の協調的関係の構築が必然となる。類似した高齢化過程を経て、先に超高齢社会に突入している日本の経験知への期待も大きい。各地域の高齢社会状況と背景要因について理解し、地域間連携に取り組むためには、それぞれの長寿文化に関する関心と合わせて関連コンテンツへのアクセス度を一層高めていくことが求められる。

## 2. 研究の目的

本研究課題「アジア連携型長寿社会基盤構築に関する実証的研究：ICT を活用した広域多主体協働」ではアジアの特長を生かした地域間連携、多様な主体による肯定的な長寿社会像の定着につながる基盤整備を目的とする。そのため、アジアの中でも高齢化が急速に進展している日本、韓国、シンガポール、タイの高齢化状況を理解するとともに、4地域が多様な領域の人々の高齢社会に関する意識、世代間連携基盤などについての調査、成果発信に取り組む。このことで、各地域の長寿文化、高齢社会状況の見える化を進めていく。

## 3. 研究の方法

日本、韓国、タイ、シンガポールにおける大学生の高齢者イメージに関する質問紙調査、社会参加活動をしている高齢者を中心にインタビュー調査を実施した。大学生や高齢者、そして多様な領域の研究者からの研究協力を得て、高齢社会への多様な意識と実践のあり方を探り、結果的に社会的連携の基礎作りを試みた。各地域の高齢化状況に関する理解を深めるために、研究代表者のホームページに「AA 語り場」を立ち上げ研究成果を公開し、アクセスしやすいように工夫した。成果報告書『Lively Aging アジアの粋・生きエイジング』（一部、日・韓・英多言語対応）を発行し、研究成果の社会還元を図っている。

## 4. 研究成果

日本、韓国、シンガポール、そしてタイの大学生を対象に高齢者イメージ及びその背景に関する質問紙調査を実施した。4地域に共通する調査結果として、大学生の場合、高齢者との同居や世話経験が高齢者イメージに影響していることが観察された。日本、韓国、シンガポールの高齢者を対象とするインタビュー調査ではアクティブ・エイジング活動に関する意識及び実態、世代間関係についての調査を行った。いずれの地域においても生涯学習への意欲と、簡単に取り組むことのできる活動環境の整備が持続的なアクティブ・エイジングを土台となっている。地域的な特徴として、韓国、シンガポール、そしてタイにおいては高齢者と大学生の交流、長寿文化と関連して宗教の影響がうかがえた。さらに高齢者のイメージ及び自身の高齢期の姿に

については報道や祖父母の影響が4地域共通してみられる一方、韓国では映像作品への関心と影響が相対的に強く観察された。高齢化社会に関する映像作品と世代間連携の関係について、今後の研究課題としたい。

本研究は、多地域（日本、韓国、シンガポール、タイ）の多世代（大学生と高齢者）、そして多領域の研究者（看護、社会福祉、情報リテラシー、地域学など）の協働による国際協働研究として取組まれた。高齢化社会の課題解決に向けては社会的統合、多主体連携による協調が重要とされている。本研究の4地域を筆頭にアジアでは人口高齢化が急速に進展している。本研究データは、高齢社会課題への国際協調を通してアジアでの発展的な交流関係を目指す際の基礎資料の一つとして成果還元できると考える。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計5件)

吉永敦征・畔津忠博・金恵媛「ICTを活用した多主体間の長寿文化共有のためのシステム構築」、『共通教育機構紀要』第7号、pp.57-60、2016年3月

吉永敦征・畔津忠博・金恵媛「情報の取得による高齢者イメージの変化について」、『山口県立大学学術情報』第10号、pp.67-74、2017年2月

畔津忠博・金恵媛・吉永敦征「高齢者との接触経験が若者の高齢者像の生成に及ぼす影響に関する日韓比較」、『国際文化学部紀要』第24号、pp.67-73、2018年2月

吉永敦征「高齢者の、高齢者からのデジタルデバイド」、『信学技報』vol.118、no.280、pp.69-72、2018年11月

金恵媛・畔津忠博・吉永敦征ほか「韓国・タイ・シンガポール・日本の大学生の高齢者イメージ」、『国際文化学部紀要』第25号、pp.67-73、2019年3月

### 〔学会発表〕(計5件)

金恵媛・吉永敦征・畔津忠博「高齢者イメージにみるステレオタイプとそれを揺さぶる情報源 日韓の大学生が抱くステレオタイプのバリエーション」日本老年社会科学会第59回大会（ポスター発表）、2017年6月16日

金恵媛「高齢期の社会参加活動に関する日韓比較 自律的な取組と活動の持続性」現代韓国朝鮮学会第18回研究大会、大東文化大学、2017年10月21日

金恵媛・畔津忠博・吉永敦征・HAN, Donghee・SUMPOWTHONG Kaysorn・THANG Leng Leng「国際セッション 高齢化するアジアにおける世代間関係 韓国・タイ・シンガポール・日本の大学生が抱く高齢者イメージからの示唆」第28回日本家族社会学会大会、2018年9月8日

吉永敦征「高齢者の、高齢者からのデジタルデバイド」、『信学技報』, vol.118, no. 280, pp.69-72, 2018年11月

“College students' perceptions on aging in S. Korea, Thailand, Singapore and Japan”, Hyeweon Kim, Tadahi ro Azetsu and Nobuyuki Yoshinaga, 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (SSD0004), Taipei International Convention Center, 2019年10月23-27日（採択済み）

### 〔図書〕(計1件)

金恵媛編『Lively Aging アジアの粹・生きエイジング』株式会社マル二、2019年3月、総187頁

〔その他〕

ホームページ:「アジアの粋-生きエイジング」;「AA 語り場」(<https://www.hwkimlab.com/>)

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者 (2 名)

研究分担者氏名: 畔津忠博、吉永敦征

ローマ字氏名: AZETSU, Tadahiro, YOSHINAGA, Nobuyuki

所属研究機関名: 山口県立大学

部局名: 国際文化学部

職名: 准教授

研究者番号 (8 桁): 70285451、30382386

### (2)研究協力者 (7 名)

研究協力者氏名: HAN Donghee(社団法人老人生活科学研究所), THANG Leng Leng(シンガポ

ール国立大学)、SUMPOWTHONG Kaysorn (タマサート大学)、KIM Youngsoon (建陽大学校)、

HAN Sujeong (建陽大学校)、LEE Sungkook、YOON Heejung (慶北大学校)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。